

トホクの落花生栽培方法

発芽適温：20℃前後 生育適温：15～25℃
 土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；2～3年あける

1. 作物特性

ラッカセイは落花生という漢字の示す通り、花が咲いた後に子房柄と呼ばれるその先が枝のように地面に向かって伸びていき、地中で実をつける不思議な植物です。肥料を入れ過ぎると株ばかり育って実のつきが悪くなりますから肥料は控えめに栽培します。また開花後に子房柄が伸びるために地面はよく耕しておきますが、花が終わった後は子房柄を切る恐れがあるため株元への中耕は避けます。

2. 畑の準備

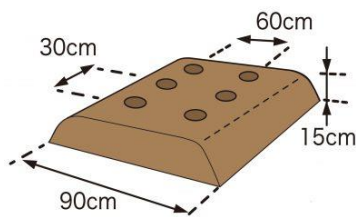
連作を嫌うのでマメ科野菜を3～4年栽培してない畑を選びます。肥料を多くやり過ぎると、茎葉ばかりが繁って莢の付きが悪くなりますので肥料のやり過ぎには注意しましょう。



ラッカセイは花が咲いた後に葉の付け根から子房柄という細い枝のようなものが伸びて地面にもぐります。実はその先端に着きますから、できるだけいねいに耕しておきましょう。またラッカセイは水はけのよい土壌を好みます。うねの高さは15cm位が最適ですが、排水の悪い畑ではもう少し高いうねを立てるとよいでしょう。

3. タネまき

株間は30cmとします。深さ1cm程度の穴をあけ、1カ所に3～4粒タネをまきます。土をかけて上から軽くおさえ、水をやります。



畑に直接タネをまく場合は、鳥の食害を防ぐためにテグスや防鳥テープ、また防虫ネットなども鳥避けの目的で使うのも効果的です。またポットにタネをまいて鳥の来ない所で苗を育て、発芽後に畑に植えつけることも良いでしょう。

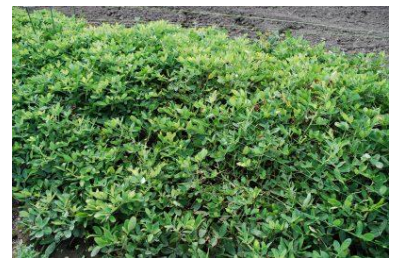
4. 栽培管理

除草を兼ねて土寄せを行います。土寄せは間引き後と草丈が30cmくらいになった頃の2回位行くと倒伏も防止できます。その場合は株元に1㎡あたり20gの化成肥料を施してから、土寄せをします。



開花後、子房柄が地中にもぐる前に畑の表面はやわらかくしておきます。収穫が近づいてくると、今度はその地中にできてきた豆を

食べようと鳥がやってくる可能性があります。ここでもテグスなどを張って鳥の食害を防ぐ必要があります。



5. 収穫

花が終わってから80～100日以降、地上部の葉が黄色く変色してきた頃が収穫期です。莢の中の実が膨らんでいることを確認してから収穫します。



生ラッカセイを味わうなら、掘り取った後すぐにさやを水洗いして塩茹でします。完熟させた豆を利用する場合は掘り出した莢を上に向けて天日で乾燥させます。乾燥中はテグスなどを張って鳥の食害を防ぎます。

地域/月	栽培例											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地					●	●					●	●
中間地					●	●				●	●	
暖地					●	●				●	●	